

平成25年度 管理職「人権教育」研修講座 報告書

人権尊重の視点に立って、
今、地域と共にある学校づくりを進める

- 1 日時及び会場 平成25年5月20日(月) 13:00~16:00
- 2 参加者 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の管理職
(各校1名参加) 《257名》
- 3 内容 13:00~13:30 開会行事
13:30~15:00 全体研修(講演)[大講座室]
15:10~16:00 グループ研修[中講座室1~6]



<全体研修>

講演 「人権が大事にされる家庭・地域と共にある学校づくり
~継承・発展・創造の9年間をめざして~」

講師 栗原成壽(文部科学省「人権教育の指導方法等に関する
調査研究会議」委員、伊賀市立柘植中学校前校長)

(講演の要旨)

- ・ 現在は、「人権教育・啓発推進法」の制定や「人権教育の指導方法等の在り方」とりまとめた公表などにより、人権教育がオーソライズされ、人権教育を進めることが学校のコンプライアンスとなっている。
→ 人権尊重の視点が位置付いた学校づくりの推進
- ・ 文部科学省「人権教育の推進に関する取組状況調査」結果から、学校と保護者・地域とが協働・参画した取組の必要性が指摘されている。
→ 地域と共にある学校づくりの推進
- ・ 子どもの姿を保護者に発信することで、学校の取組に対する理解を得ることができ、学校と家庭・地域の協働による子育てへとつながることができる。今、そうした取組が求められている。
- ・ 差別と貧困の世代間の連鎖を断ち切るのは、学校の使命でもある。そのためには、子どもたちの社会的自立をめざした進路保障を進めなくてはならない。伊賀市立柘植小学校・中学校では、すべての活動の基盤に「なかまづくり・学級集団づくり」を据えてキャリア教育を進めている。
- ・ 管理職に求められるのは、人権教育の推進に向けて文部科学省や教育委員会から示される枠組みや例を、それぞれの地域や学校の課題・実態に合わせてコーディネートする力である。



<グループ研修>

テーマ 「人権尊重の視点に立った地域と共にある学校づくり」の具現化

- 視点
- ・ 自分を大切にするとともに他の人を大切にすることができる 子どもの育成
 - ・ 思いや願いを受け止め、子ども一人一人の自己実現を支援する 教職員の資質向上
 - ・ 地域社会全体で子どもたちを育てるため、協働する 地域の人々の意識の向上

- 内容
- (1) 自校の目標と現状、及びそこから見えてくる課題
 - (2) 課題を克服するための手段・手法について
 - 「人権尊重の視点に立った地域と共にある学校づくり」に向けて
 - ① すぐにでも取り組めること
 - ② 2年から3年の中期的な取組として進めようとする
 - (3) 人権尊重の視点に立った「地域と共にある学校」の具体的なあり方について



【人権尊重の視点に立った地域と共にある学校の具体化に向けて】

~グループ研修・ワークシートから見えてきたことのまとめ~

- 地域が学校の教育目標や取組等を知り、学校が「地域の思いや願い」を知ることから、学校と地域との間に相互の信頼感が醸成される。
- 課題を共有し、共に考え、協働して取り組む体制づくりを通して、地域が一体となって子どもの成長に向けた支援につながる。
- 子どもの成長を軸としたつながりが地域を活性化し、地域のネットワークをより確かにする。
- 子どもの豊かな成長を願い、人々がつながっている姿の中にこそ、「人権尊重の視点に立った地域社会」の具体像が示されている。

ワークシート(一部)

